

授業科目 哲学入門

【担当教員名】 渡辺 信也	対象学年	1	対象学科	理学・作業・言語・義肢・臨床・健栄・スポ・社会・看護・情報	
	開講時期	前期	必修選択	選択	
	単位数	2	時間数	30	
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
○	◎	○		◎	
【概要・一般目標：GI0】 哲学は、人間の「知りたい」という根源的な欲求に基づいて古代ギリシアに生まれ、諸学問の規範的な意義を担った「学」のなかの学」ともいべき学問である。その研究対象は、人間・社会・歴史・自然等など、人文科学・社会科学・自然科学の全領域に及ぶとともに、ある意味ではそれらを超越しさえする。また哲学を学ぶということは、単なる既成の知識の習得にとどまらず、ものごとを根底から、徹底的に深く考えるための「わざ」を習得し、何ものにもとらわることなく、主体的に真実を追究するという、学問研究の基礎的な姿勢を身につけることである。本講義は、近現代を中心に西洋哲学の流れを概観することを通して、哲学の諸領域に関する基礎的な学説を学ぶが、それは同時にさまざまな「もの見方・考え方」に触れ、従来の自分の常識を反省し、ものごとを多角的・根源的・学問的に考えることができるようになるための基礎トレーニングでもある。					
【学習目標・行動目標：SBO】 さしあたっての目標は、西洋哲学の諸概念・諸理論に関する基礎知識を習得することであるが、必ずしも講義内容を暗記する必要はない。むしろ聴講者は、毎回講義に関する質問やコメントをレポートとして提出することを通して、個々の講義内容に対して自分なりの見解を示すよう「考える」ことを求められる。そうした作業を通して、従来の常識にとらわれず、哲学的にもごごとを根本から考え探究する姿勢、主体的かつ柔軟な態度で真理を追求する姿勢を身につけること（なおこれは、実用的には将来自分でレポートや論文を作成できるようになるための基礎技能の習得という意味合いも持っている）が最終的な目標である。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
	1 哲学とは何か～古代ギリシア哲学（1）自然哲学 —哲学的思想の根源 2 古代ギリシア哲学（2）ソフィスト・ソクラテス・プラトン —相対主義から普遍的真理へ 3 古代ギリシア哲学（3）アリストテレスと新プラトン主義 —合理主義と非合理主義の相互浸透 4 中世哲学～ルネサンス期の哲学 —宗教・哲学・科学の三位一体 5 近世哲学（1）ベーコン・デカルト —近代合理主義の哲学 6 近世哲学（2）ホッブズ・バスカル・ロック —近代合理主義の展開 7 近世哲学（3）パークリー・ヒューム～カントの哲学（1）—認識論の展開 8 カントの哲学（2）倫理と芸術 —人間存在のありか 9 ドイツ観念論の哲学 —ヘーゲルを中心に —弁証法と精神の哲学 10 現代哲学（2）マルクス主義と実存主義 —キルケゴールを中心に —ヘーゲル後の弁証法の展開 11 現代哲学（3）生の哲学 —ニーチェを中心に —生の意味とは 12 現代哲学（4）分析哲学 —ウィトゲンシュタイン —言語の哲学 13 現代哲学（5）現象学とハイデガー —存在とは何か 14 現代哲学（6）公共世界の哲学 —真理と正義のありか 15 現代哲学（7）ウィルバーの統合哲学 —現代思想とスピリチュアリティ （以上の授業計画は一部変更することがある。）				講義（以下同じ）
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>	
教科書 （必ず購入する書籍）	（なし）				
参考書	（講義中に指示する）				
その他の資料	毎回プリントを配布する				
【評価方法】 レポート・出席状況・期末試験を総合して評価する。			【履修上の留意点】 特に予備知識は必要ないが、毎回講義の最後に簡単なレポートを提出してもらうので、積極的に取り組むこと。		